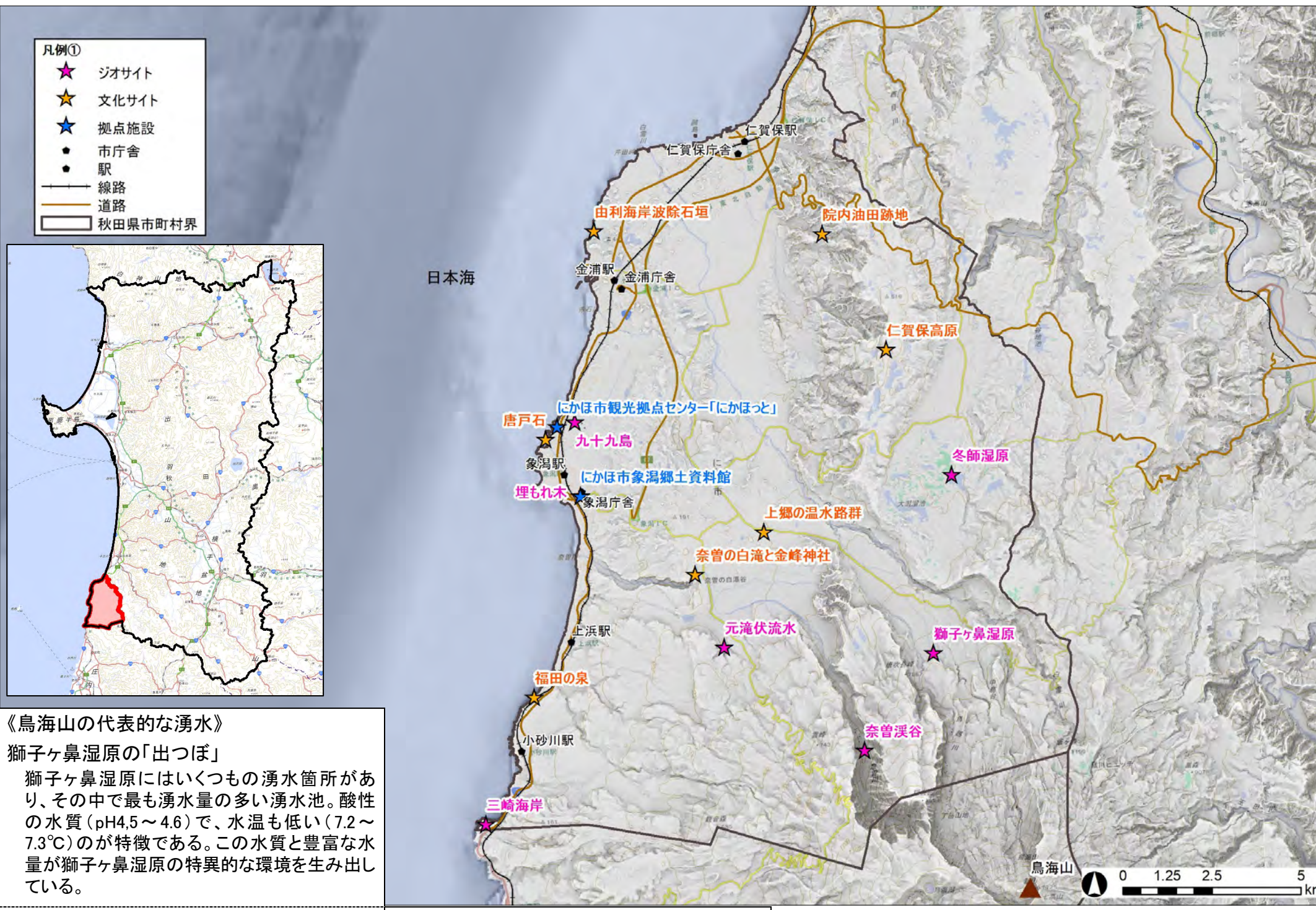


図 B-1 : にかほ市のジオパークのみどころ ～ジオサイトと文化サイト～



- ・秋田県にかほ市、由利本荘市、山形県遊佐町、酒田市にまたがる「鳥海山・飛島」地域は、2016年に日本ジオパークネットワークへ認定されました。
- ・鳥海山・飛島ジオパークでは、「日本海と大地がつくる水と命の循環」をテーマに掲げ、この水と命の循環を間近に観察することのできる貴重な自然や文化を次の世代につなげるための活動が行われています。
- ・にかほ市には、ジオパークの見どころとして、ジオサイトと文化サイトが多数設定されています。
- ・ジオサイトとは、現地で見られる地質、地形、歴史などの観察ポイント(ジオポイント)を、そのジオパークを特色づける一つの特徴的なテーマでまとめた「見どころ」のことです。
- ・文化サイトは地域特有の産業や農業活動や歴史的史跡など、文化的な視点からジオパークを楽しみ、学ぶことができる場所です。
- ・ジオサイト、文化サイトともに、その歴史を掘り起こしてみると何かしらで水との関わりがあり、水とは切っても切り離せない関係にあります。
- ・にかほ市観光拠点センター「にかほっと」やにかほ市象潟郷土資料館などの拠点施設があり、ジオパークに関する資料や展示などがあります。

《鳥海山の代表的な湧水》  
**獅子ヶ鼻湿原の「出つぼ」**  
 獅子ヶ鼻湿原にはいくつもの湧水箇所があり、その中で最も湧水量の多い湧水池。酸性の水質(pH4.5～4.6)で、水温も低い(7.2～7.3℃)のが特徴である。この水質と豊富な水量が獅子ヶ鼻湿原の特異的な環境を生み出している。

**元滝伏流水**  
 水量が豊富で、水温は年間通して約10℃であり、近隣の生活用水や周辺地域の農業用水としても利用されている。地域の方々の手によって水質保全や水源浄化のために、ブナの植樹や清掃活動が行われている。

**清水場地区の「出つぼ」**  
 小砂川地域の清水場(しみずば)地区には昔から生活用水として使用されている湧水池があり、獅子ヶ鼻湿原のものと同様に、周辺地域では「出つぼ」と呼ばれている。

凡例	原典情報
ジオサイト、文化サイト	鳥海山・飛島ジオパークHP
拠点施設	鳥海山・飛島ジオパークHP
道路	国土数値情報「緊急輸送道路」2013年度/国土交通省 国土政策局
鉄道	国土地理院「軌道の中心線」/国土地理院
河川	国土数値情報「河川」2007年度/国土交通省 国土政策局
背景	地理院地図(タイル、標準地図)/国土地理院 赤色立体地図 アジア航測(株) ※特許3670274号

「測量法に基づく国土地理院長承認(複製)R2JHf103」  
 「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」

「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R2JHs132」

①中島台・獅子ヶ鼻湿原(あがりこ大王)



鳥海山の火砕流がつくったなだらかな地形に緑豊かなブナの森が広がっている。不思議な形をした「あがりこ大王」は森の王者と呼ばれている。獅子ヶ鼻湿原は多数の箇所から流れ込む湧水によって満たされており、代表的な湧水池として「出つぼ」が知られている。湿原では「鳥海マリモ」と呼ばれるコケ類が見られる。

⑥象潟岩なだれ堆積物と埋もれ木



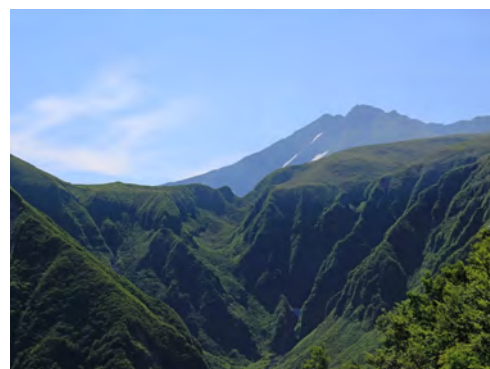
およそ 2500 年前、鳥海山の山頂がくずれて約 60 億トンの岩石が海に流れ込み、にかほ市沿岸部の大地や、象潟地域の「九十九島」の原形がつけられた。鳥海山の山体崩壊による「岩なだれ」の下じきになり、地中に埋もれた樹木が「埋もれ木」である。

⑪上郷の温水路群



稲作に利用していた鳥海山の冷水を温め、生育障害を解消するため、上郷地区の住民が考案して作った農業用水路。水路の幅を広く、水深を浅くし、多くの落差を設けて空気が混ざる構造で、昭和 2 年に日本で初めて作られた。

②奈曾溪谷



鳥海山6合目付近から北側にのびる、深さ約 300m～500m、幅約 500m～1,000m の溪谷。奈曾川の源流でもあり、侵食によって出来たV字型の溪谷は鳥海山を深くえぐっているため、山の構造を観察することができる。

⑦三崎海岸



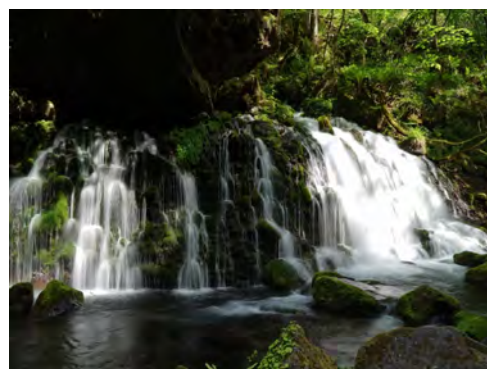
数千年前に鳥海山から流れ出た溶岩がつくった海岸で、秋田・山形の県境に位置している。タブノキの森に残る石置の旧街道は難所として知られ、「手長足長」の伝説も加わっている。

⑫由利海岸波除石垣



江戸時代に日本海の波浪や強風による塩害から農地と農作物、海岸沿いを走る北国街道を守るために築かれた石垣。表面は 30～50cm の自然石・内部は砂利という構造や、水抜き配置など、先人の知恵が随所に見られる。

③元滝伏流水



約 10 万年前に流れ出た溶岩流の末端部から滝のように湧き水が絶え間なく流れ出している。苔むした岩肌の上を幾筋もの水が流れ落ち、一帯は薄霧に包まれた神秘的な景観が広がる。「平成の名水百選」にも選ばれており、近隣の生活用水としても使われている。

⑧院内油田跡地



かつては国内有数の産油量を誇った油田設備の跡。大正 11 年、大日本石油鉱業(株)が試掘を始めたのを皮切りに、急速な開発が進むことになった。周辺には、院内・桂坂・小滝・上浜の四油田があったが、その中でも、最大の採油量だった。平成 7 年に閉山。油田発掘時には一緒に地下水も産出される。

⑬唐戸石



今からおよそ 2,500 年前(紀元前 466 年)に発生した鳥海山の山体崩壊によって山頂付近から大量に流れしてきた岩石の一つ。高さ 4.3m、幅 5.0m。かつては海中にあったが、1804 年に象潟沖を震源とするマグニチュード 7(推定)の地震が発生し、象潟一帯の地盤は約 2m 隆起したことにより陸上にその姿を表した。そのため、岩の上部には波の侵食跡が残っている。

④冬師湿原



九十九島と同様に、にかほ市冬師地区の広い台地に象潟岩なだれが覆いかぶさり、つくられた湿原。所々に小高い流山があり、流れ山と流れ山の間は窪地になり帯水域となり、湿地帯を形成している。

⑨仁賀保高原



鳥海山の岩なだれ堆積物がつくった標高約 500m にある高原部。爽やかな風を感じながら、広々とした牧草地や緑のなかに点在する湖沼、鳥海山を望むことができる。

⑭福田の泉



約 14 万年前に鳥海山から流れ出た溶岩で出来た高さ 50m ほどの崖の下から出る湧き水。鳥海山の内部で、溶岩が何千もの層となってたくさんの水をため込み、数年から数十年かけて湧き出している。水温は年間を通じて約 12 度、湧出量は平均 5ℓ/秒。

⑤九十九島



今から約 2,500 年前(紀元前 466 年)の鳥海山の山体崩壊と岩なだれによりできた、小さな丘が点在する地形。やがて一帯は湖になり、小さな丘は湖の中の島々となり、美しい風景となった。1804 年の地震で地盤が隆起し、湖はなくなったが、島々は当時の姿を残している。

⑩奈曾の白滝と金峰神社



鳥海山の修験の拠点であった金峰神社の境内をすすみ、長い石段を降りると、右手に神社社殿、左手に滝を見ることができる。奈曾の白滝は落差 26m・幅 11m の名瀑で、滝をつくる岩盤は約 10 万年以前の鳥海山の溶岩と推定されている。

⑮象潟郷土資料館



九十九島(象潟)のなりたちや歴史・文化を分かりやすく知ることができる資料館。埋もれ木などが展示されている。

\*写真は「鳥海山・飛島ジオパーク」HP より (<https://chokaitobishima.com/>)